

芦安小学校後期自己評価書

■学校教育目標

郷土を愛する心と夢を育み 未来を拓く人づくり

■評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ. 学校運営・学校経営」、「Ⅱ. 学習指導」、「Ⅲ. 生徒指導」、「Ⅳ. 保護者・地域との連携」、「Ⅴ. 学校の特色ある取組」の5領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童・保護者）を行った。

質問に対しての回答選択肢は基本的に4段階である。

A：そう思う

B：ややそう思う

C：ややそう思わない

D：そう思わない

このうちAとBは肯定的なプラス評価，CとDは否定的なマイナス評価である。

A・B・C・Dのそれぞれの選択肢を点数化し，A＝4，B＝3，C＝2，D＝1として集計し，回答者数で割って平均点をもとめた。

・全体にプラス評価（A・B）が多ければ，平均点は3点以上になり，4点に近づいていく。

・全体にマイナス評価（C・D）が多ければ，平均点は2点以下となり，1点に近づいていく。

教職員数ならびに保護者，児童数ともに，アンケート数は少ないが，2学期以降，共通理解して取り組む必要があることが明らかになったものもある。

■全体評価

アンケート調査の結果から，児童・教職員・保護者あわせ，前期同様ほとんどの項目で肯定的評価の傾向となっている。これは，前期に引き続いて芦安小学校の教育活動が，保護者や地域の理解と協力を得ながら，効果あるものとなっておこなわれていることや，児童が充実感と向上心を持って学校生活を送っていることが，全体の傾向として見てとれる。

小規模校の利点を生かし，教職員と児童，児童同士のコミュニケーションは，前期同様図られている。児童のアンケートの結果を見ても，多くの児童が，「学校は楽しい」（前期評価3.5→後期評価3.5），「先生は，声をかけてくれたり，話をしてくれる」（前期評価3.6→後期評価3.7）と肯定的な回答をしている。教職員の自己評価アンケートにおいても，「児童一人ひとりとコミュニケーションを図り，正しい児童理解や共感的理解に努めている」（前期評価3.6→後期評価3.5）と，前後期とも高い評価であった。また，保護者のアンケートの結果を見ても，「お子さんと教職員のコミュニケーションはよくとれていると思いますか（前期評価3.6

→後期評価3. 7)「学校では、いじめのない学級、学校づくりに努めていると思いますか」(前期評価3. 6→後期評価3. 7)について肯定的な回答となっており、保護者との一定の信頼関係のもと、学校が運営されていると言える。良好な関係は、教育の原点であり、非常に大切なことである。しかし、児童の中に少数ではあるが否定的な評価もあることは看過できない。このことには、引き続き留意し、全教職員で取り組んでいかなければならない。

また、児童の回答から、児童は、あいさつやそうじ、係や当番をしっかりとやっているという自負を抱えていることがわかる。このことは、本校に学ぶ児童の誇るべき点であり、優れた伝統と言える。教職員がその素晴らしさを意識し、継承していく気構えをもってこれからも教育活動に取り組まなければならない。

今後も、児童・保護者との信頼関係と本校の伝統を大事にしながら、少人数の利点を生かした教育活動と「小中一貫教育」、地域連携を柱とした「芦安郷育」をより一層推進していきたいと考える。

■<これからの重点課題>

①小規模校のよさを活かし、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りながら、児童が主体的、意欲的に学ぶ教育活動の充実を図る。

子供達が、信頼する教師の下で楽しく学んでいることは、前述のとおりである。このことは、校内研究のテーマ「生き生きと自己表現ができる児童の育成～コミュニケーション能力を高める、小中一貫型をめざした英会話科授業の実践～」を中心に、学級、低・中・高ブロック、全校一斉と学習形態を工夫しながら、全職員で児童一人一人に対する「きめ細かな指導」を継続的におこなってきた成果と考えられる。

また、児童アンケートは、「授業中、発表や発言をしますか」(前期評価3. 4→後期評価3. 6)、「先生や友達の話をしっかり聞いていますか」(前期評価3. 7→後期評価3. 6)、という回答になっている。このことは、教職員が「あしやすスタンダード」に基づく授業づくりに努めてきたこと、また、学び合いのある授業について外部講師に数回にわたってご指導いただきながら、一人一人が創意工夫を凝らしてきたことの成果でもある。

基礎的・基本的な学習内容の定着は、子供の自信につながる。今後も、小規模校という本校の利点を生かし、一人一人に寄り添いながら、丁寧な指導を工夫し基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていく。そして、「あしやすスタンダード」の活用をしながら、基礎基本を活用する主体的で能動的な授業へと授業改善をすすめていきたい。また、本校の実態に合わせた、他者から学び自己の生き方について考える「特別の教科道徳」の授業のあり方についても学んでいきたい。

また、今回のアンケートで授業や友達関係について否定的な回答をした児童については教職員で注視し、早急に取り組んできたように、これからも児童の悩みや不安などは見過ごさず、全職員で解決を図り、継続的な見守りをしていく。そしてど

の児童も意欲的な学校生活がおくれるようにしていきたい。

保護者アンケートのから、「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」(前期評価2.5→後期評価2.8)、「お子さんは、家で本を読んでいますか」(前期評価2.6→後期評価3.3)(※質問項目変更)であった。家庭学習の取り組みと家庭での読書推進については一定の成果を得ている。保護者の協力を得ながら、継続的に取り組んでいきたい。

②「芦安郷育」「小中一貫教育」を柱とした、豊かな体験活動の充実・展開をより推進し、地域や家庭との連携を深めながら、さらに特色ある学校づくりに努める。

教職員アンケートの「V. 学校の特色ある取組」においても、肯定的評価となっている。小中9年間を見通した英会話教育や、ユネスコスクール加盟校として、自然体験やE S Dへの取り組みを意識した「小中一貫教育」、「芦安郷育」の取組は、本校の大きな特色であり、教職員も児童も多く時間を費やしてきた。縦割り班で取り組んだ運動会、留学生とコミュニケーションを図ったハロウィンパーティー、学年ブロックや全校の総力で取り組んだ文化祭、学校林整備作業や地域の方々と楽しんだ焼き芋集会など様々な取り組みを通して、子供達は自己肯定感と思いやりを育み、成長を遂げながら自信をつけてきた。また、自分や学校や地域に対して誇りをもってきた。児童の回答からも、これらの活動が大きな成果をあげてきていると言える。

これまで、これらの活動については、成果と課題を教職員で共有しながら、工夫改善を図り、また、次年度の計画に反映させるために教育課程へ位置付ける取り組みを進めてきた。また、教育課程特例校の指定がなくなり英会話科の授業がなくなることから、これまで培った児童の英会話力、コミュニケーション能力を維持向上させるための方策も考えているところである。全職員が協力して、来年度も本校の特色ある取組を推進していきたい。

また、「芦安郷育」「小中一貫教育」は保護者、地域の方々、そして来年度から小中一貫校として共に歩む芦安中学校に大きく支えられている。これからも、保護者・地域に積極的に情報を発信し、説明責任を果たし、声に耳を傾け、信頼を得て、連携・協働しながら教育活動を充実させていきたい。学校教育目標を見据えることで中学校とより一層の共通理解を図り、「小中一貫教育」のさらなる充実も図っていく。

文化祭で来校者から「子供達に元気をもらった」という感想をいただいた。子供達の力は、地域の活力ともなりうると考える。地域に貢献し、地域と共にある学校という視点も大事にしていきたい。